

福島県立図書館

第1節 概 要

1 はじめに

当図書館は、県民の学習センターとして、増大する資料要求に対処し得る資料の整備充実を図るとともに、市町村立図書館、公民館図書室への資料の援助、読書普及活動の推進等に重点を置いてきたが、本年度も引き続き、下記の重点目標を設定して、運営に当たった。

(1) 図書館資料の充実

自然科学部門について専門家による蔵書診断を実施し、基本図書の収集整備を行い、更に県人著作の収集に努めた。

(2) 調査相談の充実と目録の整備

各部門にわたる参考資料の整備に努めるとともに、法律関係「小野崎文庫」の目録を完成した。これによって貴重な法律関係図書の利用が今後期待される。

(3) 相互協力事業の推進

資料の相互貸借業務を推進するとともに、県内図書館の調査相談への協力を積極的に行った。

(4) あづま号の運用

駐車場毎の利用実態を分析し、市町村の実態に応じた資料の援助によって、自主的に運用する体制づくりを試行した。

(5) 親子読書文庫の充実

図書の更新を図り、配本時において運用上の問題点等について積極的に助言指導を行った。

(6) 読書普及活動の推進

関係団体との連絡協調、県図書館大会、子供の本研究講習会等の開催をととして、読書活動の推進に努めた。

(7) 職員研修事業の強化

全国奉仕部門研究集会をはじめ、各分野にわたる研究会、講習会を実施し、資質の向上に資した。

2 図書館協議会

昨年度の委員が2年目を迎えて、議長に辺見正治氏（福島市教育委員会教育長）、副議長に小林忠道氏（福島商工会議所専務理事）が再選され、図書館運営等について貴重な提言がなされた。

第1回（昭和53年8月25日）

- ・53年度予算及び事業について
- ・県立図書館の早期改築に関する請願について

第2回（昭和54年1月31日）

- ・北日本図書館協議会の理事の推せんについて
- ・その他

第3回（昭和54年2月22日）

第4回（昭和54年2月23日）

- ・県立図書館の建設構想について
- ・その他

第2節 整理事務

1 資料の収集

(1) 一般資料の収集

利用者の多様な資料要求に対応して、各部門の基本図書や事典、年鑑、年表、各種索引等の参考図書の整備を図ったが、とくに工学、工業部門に重点をおいた。

受入れ状況は下表のとおりである。購入図書について見ると、総体的に前年度比で24%の増であるが、館内用の一般図書が減少し、児童図書が大幅に増えている。

児童図書については、館外用でも増加の傾向にあり、全県的な親子読書活動の進展による需用の高まりをしめしている。

資料の受け入れ、整理状況 (昭和53. 4～54. 3)

区 分	購 入	寄 贈	編 入	管理換	計
一般図書	(館内) 3,192冊	2,010冊	252冊	2冊	5,456冊
	(館外) 3,593	1,014	0	0	4,607
児童図書	(館内) 1,073	4	0	0	1,077
	(館外) 6,180	201	0	0	6,381
計	(館内) 4,265	2,014	252	2	6,533
	(館外) 9,773	1,215	0	0	10,988
計	14,038	3,229	252	2	17,521

(2) 郷土資料の収集

県内出版物は官公庁から刊行される、いわゆる行政資料と民間の出版物に大別できるが、53年度中に収集したのは約1,300点である。

行政資料の中には「図説福島市史」「五十沢村誌」「西郷村史」「矢吹町史」「三春町史」など、市町村史の刊行が続き、文化財や歴史探訪のガイド的なものも多い。その他では「福島競馬六十年」「福島県議会百年史」「福島県信金30年史」など、記念誌的なものもわりあい目についた。

2 図書館資料の整備

(1) 蔵書の検討

蔵書構成についてはしゅうぶん留意しているが、より適切な蔵書構成を図るために、専門家による蔵書診断を年次計画で進めている。53年度は自然科学部門について実施したが、委員は次のとおりである。

柴 昌明	福島大学助教授	数学
吉田 俊博	〃	物理学
人見 三男	福島大学講師	化学
木村 吉幸	福島大学助手	生物学
大木 俊夫	福島大学助教授	天文・地球物理学
真鍋 健一	福島大学講師	地質・鉱物学